

2022年 結核登録者情報調査年報集計結果について（一部抜粋）

令和5年8月29日に、厚生労働省は、標記結果を公表しました。ホームページは以下のとおりです。

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000175095_00010.html

その中から、一部を抜粋してお知らせします。

ポイントその1

2022年の結核罹患率（人口10万対）は**8.2**、前年の9.2と比べ1.0の減少となっている。前年に続き、結核低まん延国の水準である10.0以下に達した。

2020年からの結核罹患率の減少については、新型コロナウイルス感染症の影響も考えられる。

2022年に、新たに結核患者として登録された者の数（新登録結核患者数）は**10,235人**で、前年より1,284人（11.1%）減少している。

ポイントその2

都道府県別の結核罹患率（人口10万対）は、大阪府12.7、大分県10.8、長崎県10.7、徳島県10.7、和歌山県10.4の順に高く、福島県4.6、山形県4.6、新潟県4.9、岩手県5.1、長野県5.2の順に低くなっている。大阪府は、最も低い福島県の**2.8倍**となっている。

ポイントその3

2022年の結核による死亡数は**1,664人**（概数）で、前年の1,845人に比べ181人減少している。死亡率（人口10万対）は1.4で前年から0.1減少している。

ポイントその4

小児結核患者（14歳以下）のうち、重症結核例である粟粒結核及び結核性髄膜炎患者の2022年での発生はなかった。

ポイントその5

外国生まれ新登録結核患者数は、前年から99人減少して**1,214人**となっている。しかし、新登録結核患者における外国生まれの者の割合は11.9%と前年の11.4%から0.5ポイントの増加となっており、増加傾向が続いている。

ポイントその6

年齢階級別の結核罹患率は、70歳以上の高齢層で高くなっている。60～69歳の罹患率は6.1で全年齢の罹患率8.2より低いが、70～79歳で**12.6**、80～89歳で**32.6**、90歳以上では**54.0**となっている。全体としては年齢階級別罹患率の年次推移は減少傾向となっている。

ポイントその7

2021年の新登録結核患者の2022年末での治療成績は、治療成功が**64.2%**、死亡25.5%、失敗0.1%、脱落・中断1.7%、転出2.6%、治療中5.6%、不明0.2%となっている。